

「ぶんぶんひろば」における授業の実践  
「子どものための音楽会」  
(学芸学部 音楽学科)

## 1. ねらい

「子どものための音楽会」は、広島文化学園大学学芸学部音楽学科2年次の「演奏活動Ⅰ」（前期：選択科目）、「演奏活動Ⅱ」（後期：選択科目）の実践学習の一環として2011年度から開催している音楽会である。月に1回から2回、木曜日の11時30分から12時の30分間、子ども・子育て支援研究センターぶんぶんひろばにて実施している。

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」は、子どもを対象とした演奏会について、プログラムの組み方、企画の立て方、しゃべり方、立ち振る舞いを始め、子どもたちをひきつけるためのパフォーマンス力を磨くための科目である。さらに、子どもや保護者の演奏ニーズを把握し、そのニーズに応じた演奏会を開催できるようにすることを目標としており、学内の実践学習として、未就学児とその保護者を対象とした「子どものための音楽会」を開催している。

## 2. 活動の内容

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」では、企画→準備→練習→リハーサル（学生による相互評価）→本番→アンケート集計およびDVD視聴による振り返り（反転学習）→報告書の作成→反省点をもとに次の音楽会を企画する。といった流れで音楽会に向けての準備を行っている。学生には、グループ毎に2・3曲の手遊び歌を用意すること、そして子ども達が簡易楽器などを使って音楽に参加する場面を作ることを条件とし、その他の曲目など



写真1 色々な楽器に興味を示す子ども

についてはグループ楽器編成にあった内容と演出を自由に考えても良いとしている。

学生らは童謡、唱歌、クラシック、アニメソングなどの演奏ほか、手遊び歌、音楽絵本や紙芝居、ペープサート、ダンスなどの企画を考え、30分のプログラムを子ども達を飽きさせないような工夫を凝らしながら準備していく。また、子ども達が使用した楽器はすべて一つ一つ除菌シートで拭きながら片付けることを徹底させることで、子ども達にとって必要な安全面や衛生面への配慮などについても学んでいる。

保護者へのアンケート調査はすべて記述式で①プログラムの中で良かった曲、②子どもに聴かせたい曲、③実際に家庭で子どもに聴かせている曲、④子どもの年齢と性別、⑤音楽会の参加回数、⑥自由記述（学生へのメッセージ・要望など）の6項目を設定している。

学生たちは実践後にアンケート集計とDVDの視聴を行い、子どもの反応やニーズ調査の結果をもとに、次の音楽会に向けたプログラム改善を行っている。

さらに後期からは「子どものための音楽会」と並行し近隣の幼稚園、保育園、小学校、児童館での学外実習も行い、未就学児、園児、児童の年齢層の違いによる反応の違いやプログラムの組立て方などを実践的に学べるように設定してある。

## 3. 2016年度実績報告

2016年度は前期6回、後期6回あわせて12回の「子どものための音楽会」を開催した。前期の履修学生は12名、後期の履修学生は8名である。前期後期ともに2グループで交互に演奏会を開催する形で実施した。

表1 2016年度「子どものための音楽会」実施概要

回	実施日	楽器編成
1	5月26日(木)	トランペット、トロンボーン、チューバ、声楽
2	6月9日(木)	クラリネット、サクソフォン、声楽
3	6月23日(木)	トランペット、トロンボーン、チューバ、声楽
4	7月7日(木)	クラリネット、サクソフォン、声楽
5	7月21日(木)	トランペット、トロンボーン、チューバ、声楽
6	8月4日(木)	クラリネット、サクソフォン、声楽
7	11月10日(木)	サクソフォン、トランペット、チューバ、打楽器、声楽
8	11月24日(木)	サクソフォン、トランペット、打楽器
9	12月1日(木)	サクソフォン、トランペット、チューバ、打楽器、声楽
10	12月15日(木)	サクソフォン、トランペット、打楽器
11	1月12日(木)	サクソフォン、トランペット、チューバ、打楽器、声楽
12	1月26日(木)	サクソフォン、トランペット、打楽器

(実践資料および授業記録から作成)

表1は2016年度に開催した「子どものための音楽会」の概要をまとめたものである。それぞれのグループ毎にテーマや副題を決めて30分のプログラムを組み立てた。



写真2 英語の音楽もわかりやすく演出

写真2は、英語の歌詞の楽曲を取り扱った時の様子である。保護者からの「子ども向けの英語の曲をやって欲しい」という要望に応じて取り組んだプログラムである。また、プログラムの中に必ず子ども達や保護者が参加できるコーナーを組み込み、「おもちゃのチャチャチャ」などの楽曲を使用し、参加者へ音楽活動への参加を促した。アンケートの結果からこの取り組みは保護者からも好評であったことが窺える。



写真3 アンケートに答える保護者

このように毎回の音楽会の後にアンケートを実施し、それを次の回の演出やプログラムに活かすことで、回を重ねるごとにニーズに合った音楽会が開催できるようになっている。

子ども達をお見送りする活動も継続した。学生

たちとハイタッチをするなどのふれあいの場面となるだけでなく、保護者から直接の感想を聴く機会にもなっており、今後も続けていきたい活動である。



写真4 演奏会終了後のお見送りの様子

#### 4. 今後の課題と展望

「子どものための音楽会」の開催日をぶんぶんひろばの開園日ではなく、木曜日に設定したことで、音楽会の開催を知らずに来た親子が、入場できないなどの問題も解決した。また、学生にとっても演奏会の15分前までリハーサルや準備をおこなう事ができるとともに、音楽会終了後の片付けや参加者への見送りが十分に行うことができるようになった。

保護者へのアンケート調査の記述を見ると、学生たちの真摯な態度や子ども達を楽しませようとする一生懸命な姿、そして趣向を凝らした演奏や演出が好評を得ている様子である。また、学生達も、保護者のアンケート用紙に記載してある激励や感謝の言葉を受け取ることで、次回の音楽会に向けての士気が上がっており、よい相乗効果を生んでいる。

2016年度は、この音楽会の他に、夏季休業中に安芸高田市などの県北の保育所や児童クラブ、小学校での演奏会を多く実施したこともあり、後期からの音楽会の内容がより良いものになった。

次年度も、学生自身の学生と地域の親子、両者が満足できる音楽会となるよう、学生達へのアドバイスや援助、演奏活動の機会をさらに充実させるなど、指導を充実させてゆきたい。

(文責：学芸学部 音楽学科 高橋 千絵)